

製品名: CSH1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09451**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	CSH1; CSH2
別名	CSH1; CSH2
遺伝子 ID	1442.0
SwissProt ID	P01243
免疫原	アミノ酸配列範囲 161-210 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

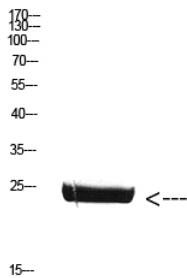
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、成長ホルモン/プロラクチンファミリーのホルモンに属し、成長制御において重要な役割を果たします。この遺伝子は、他の4つの関連遺伝子とともに、同じ転写方向にある17番染色体上の成長ホルモン遺伝子座に位

置しており、この配置は一連の遺伝子重複によって進化したと考えられています。5つの遺伝子は非常に高い配列相同性を有していますが、それぞれ異なる組織で選択的に発現しています。選択的スプライシングによって、5つの成長ホルモンそれぞれに新たなアイソフォームが生成され、さらなる多様性と分化の可能性がもたらされます。このファミリーメンバーは主に胎盤で発現し、複数の転写開始部位を利用します。絨毛性成長ホルモン 1 および 2 の同一成熟タンパク質の発現は発達中にアップレギュレーションされます。機能:成長ホルモンのものと類似しています。、その他:CSH1 の配列が表示されます。、類似性:成長ホルモン/プロラクチン ファミリーに属します。、

研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;Jak_STAT;

画像データ



800 倍希釈の抗体を用いたマウス脳細胞のウエスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 倍希釈した。